

# 大学評価・現場の課題

－名城大学の取り組みから－

---

平成20年9月5日

大学評価担当者集会2008

九州大学西新プラザ

報告者

名城大学 難波輝吉



## **本日の報告内容**

---

- 1. 名城大学の点検・評価活動の歩み**
- 2. 試行評価の取り組み**
- 3. 認証評価への取り組み**
- 4. 専門家による対話型アプローチ後の  
大学評価プロジェクトチーム**
- 5. 今後の課題**

# 1. 名城大学の点検・評価活動の歩み

- これまでの自己点検・評価報告書  
(平成5年度～平成16年度)



詳しくは, <http://www.meijo-u.ac.jp/guide/jh.html>

# 1. 名城大学の点検・評価活動の歩み

## □ 平成16年度以降の取り組み

平成16年度	➤教育研究の評価に関するWG答申
平成17年度 ～ 平成18年度	➤大学評価に関する規程, 他関連規程等の制定 ➤大学評価委員会・学部等評価委員会の設置 ➤ <b>試行評価の実施・活動内容の検証</b>
平成19年度	➤ <b>大学評価プロジェクトチームの設置</b> ➤認証評価申請に向けた自己点検・評価の実施
平成20年度	➤認証評価受審

## 2. 試行評価の取り組み

---

### □ 試行評価のコンセプト

⇒職員主導による「評価に関する学習会アプローチ」

- 大学基準協会の評価実務担当者説明会の再現
- 主要・点検評価項目単位の膨大なマニュアル作成
- 各部署に負荷をかけた大学基礎データの集約

### □ 結果は「不調」

- 試行版自己点検・評価報告書は「1,000ページ超」
- 試行評価の成果は山積みとなった「課題」  
活動ポリシー, 基本的なルールと方法, 組織体制づくり・・・等々

### 3. 認証評価への取り組み

---

#### □ コンセプトの修正

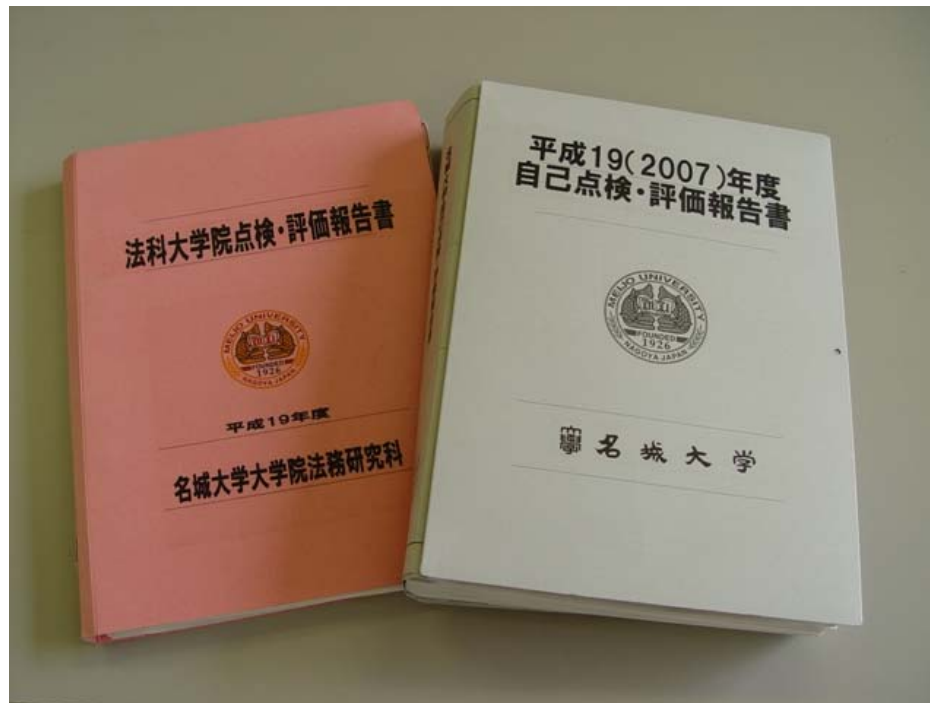
⇒**教職協働体制による「専門家による対話型アプローチ」**

- 山積する課題解決の方策の検討
- 職員による他大学訪問調査の実施と徹底した事例分析  
先行事例のGood Practiceを本学流に工夫・活用
  - 1)点検・評価体制の再設計
  - 2)点検・評価に精通した教育職員の巻き込み
  - 3)構成員が共通認識を持つ対話環境と進捗管理の重視

#### □ 結果は「**順調**」

# 3. 認証評価への取り組み

## □ 認証評価申請に係わる自己点検・評価報告書 (平成20年3月)

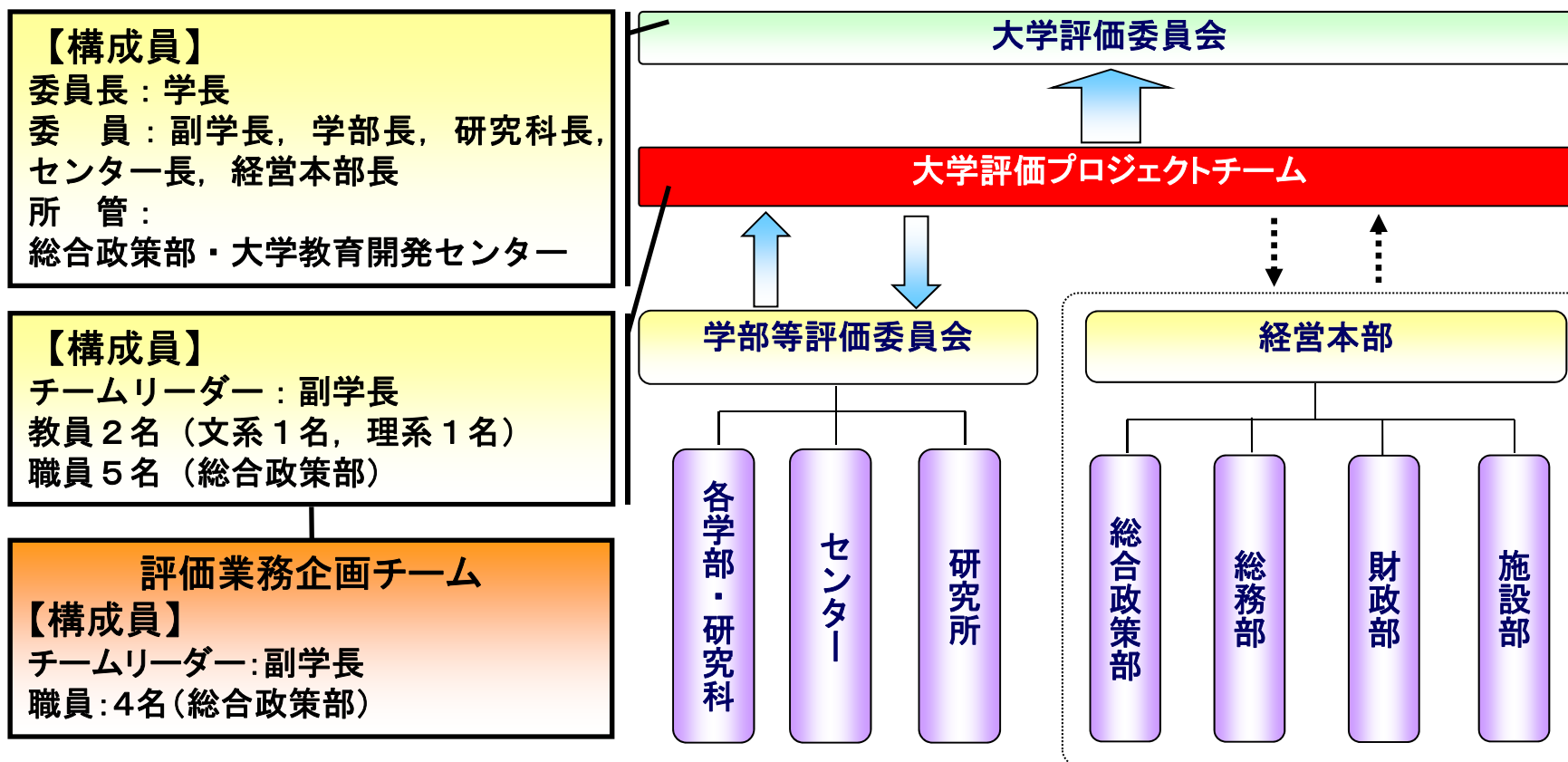


### <改善できた事項>

- ① 教職員の点検・評価活動に対する理解度の向上
- ② 自大学の強みや特色を成長させる点検・評価への転換
- ③ 平易な表現と重複記載の回避
- ④ タイムマネジメント意識の醸成
- ⑤ 継続的な評価活動に役立てるツールの開発

# 4. 専門家による対話型アプローチ後の 大学評価プロジェクトチーム

## □ 組織構成図





## 4. 専門家による対話型アプローチ後の 大学評価プロジェクトチーム

---

### □ プロジェクトチームの基本任務

- 認証評価申請に向けた自己点検・評価に係わる諸活動全般にわたる企画・立案・推進。

### □ プロジェクトチームの位置づけ

- 学長から自己点検・評価諸活動の**全権委任**。
- プロジェクトチームと各部署の**役割分担**、**責任と権限の明確化**。

### □ 活動方法の基本指針

- プロジェクトチームを起点に恒常的な情報発信を行い、**各部署とのコミュニケーション環境を活性化**し、積極的な自己点検・評価諸活動を推進する。

# 4. 専門家による対話型アプローチ後の 大学評価プロジェクトチーム

## 【活動内容①：認証評価申請に向けた自己点検・評価報告書の作成作業】

平成19年度前期の取り組み(4月～9月)	平成19年度後期の取り組み(10月～3月)
4月 大学評価プロジェクトチームの設置	10月～11月 自己点検・評価報告書草案の作成② ・各部署での最終検証作業
5月～6月 自己点検・評価活動の基本設計	12月 自己点検・評価報告書草案の完成 ・関連諸会議での報告
7月 自己点検・評価報告書リライト作業のポイントの作成 ・各部署での対応窓口の明確化 並行作業：基礎データ／教育研究等活動状況調査書の更新	1月 大学基準協会へ認証評価申請書提出 (協会へ自己点検・評価報告書の草案提出)
8月～9月 自己点検・評価報告書の草案作成① i 自己点検・評価報告書リライト作業のポイントの提示による 各部署でのインタビュー ii 基礎データ等に基づく更新作業	3月 自己点検・評価報告書の完成(承認)と公表

12月～2月  
報告書全般  
の精査

# 4. 専門家による対話型アプローチ後の 大学評価プロジェクトチーム

【活動内容②：認証評価申請後・・・実地視察に向けた諸対応】

	大学評価委員会	大学評価プロジェクトチーム	学部等評価委員会
役割	大学全体として意思決定，意思統一が必要な事項を審議する。	認証評価受審に係わる企画・立案，学部・研究科との連携・調整を行い，全般にわたる具体的な活動を推進する。	大学評価プロジェクトチームと連絡調整を行い，学部・研究科の具体的な活動に対応する。
推進事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年度内スケジュールの学内通知</li> <li>②「実地視察の際の質問事項への回答・分科会報告書(案)に対する見解」の意思決定，最終確認</li> <li>③「評価結果(協会の委員会案)」に対する意見申立の意思決定，意思統一</li> <li>④「評価結果(協会の最終案)」の通知に対する最終確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①協会との連絡調整</li> <li>②実地視察日程及び同スケジュールの策定事前の説明会・打合せの実施</li> <li>③全学事項に係わる分科会報告書(案)への対応 (実地視察の際の質問事項への回答，分科会報告書(案)に対する見解の作成)</li> <li>⑤全学事項に係わる「評価結果(協会の委員会案)」の確認，検証，対応</li> <li>⑥学部等評価委員会の③・④に係わる支援・全学的調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①面談学生(学部・研究科)の推薦</li> <li>②実地視察当日の対応(授業参観，学部・研究科別の面談調査)</li> <li>③学部・研究科事項に係わる分科会報告書(案)への対応 (実地視察の際の質問事項への回答，分科会報告書(案)に対する見解の作成)</li> <li>④学部・研究科事項に係わる「評価結果(協会の委員会案)」の確認，検証，対応</li> </ul>

## 4. 専門家による対話型アプローチ後の 大学評価プロジェクトチーム

### □ プロジェクトチームによる活動の効果

- ✚ 各部署とプロジェクトチームを繋ぐコミュニケーション環境の充実
  - 教職協働によるスムーズかつ迅速な点検・評価活動への変化。  
(信頼関係を基盤とした点検・評価活動の展開)
  - 各部署とプロジェクトチーム間の意見交換の実施による点検・評価活動に対する理解浸透。

**現状は、まだ活動の途上。**

**「試行評価の反省から得たもの」には、すべて取り組めていない。**

# 5. 今後の課題

-経営戦略に向けた評価支援の取り組み-

## □ 学校法人名城大学の基本戦略における評価の位置づけ



## 5. 今後の課題 -集約とレポーティングのシステムづくり-

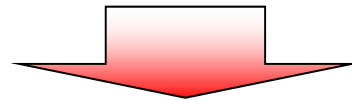
- **基本戦略実現に必要な具体的行動**
  - **情報の収集・分析・一元管理**
    - 学内に存在する教育研究情報の集約
    - 教育研究情報サービス環境の整備(=Web環境の積極的活用)
  - **持続的な評価の実施と体制づくり**
    - 改善状況をモニタリングする機能・体制の構築
  - **評価結果を大学運営・大学経営へ反映する仕組み**
    - 恒常的な評価活動と中期目標・中期計画に係わる行動との有機的連携

⇒ 恒常的に大学が果たすべき社会的責任への対応

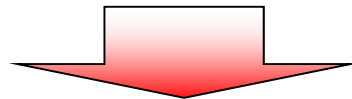
## 5. 今後の課題 -モデルとしてのIR-

---

情報マネジメントシステムの確立  
受け手のニーズとウォンツに合わせたレポートニング



大学運営・経営の意思決定を支援する  
マネジメントシステムの構築



持続的なPDCAサイクルの活動実現

現行モデルとしての  
“Institutional Research”機能導入の必要性

## 5. 今後の課題 -必要とされる人材像-

---

### IRで活動する者に求められる能力範囲

#### ①経営指標の企画・開発力

- 経営者, 教育者にとって有益な情報をつくり, 提案する力。

#### ②経営指標検証力

- 指標の妥当性, 適切性, 有効性を見極める力。

#### ③プロジェクト組織力

- 複数の構成員の有する様々な力の統合  
(行動推進力, 環境整備力, 交渉力, 情報収集力, 人間関係力など)

#### ④データ集約力

- 収集データの分析とその解釈

#### ⑤データ分析・報告力

- 学内に向けたデータや情報の提供に係わる普及活動
- 外部機関に向けたレポート作成





# 参考文献

---

- (独)大学評価・学位授与機構編著(2008)  
『大学評価文化の展開－評価の戦略的活用をめざして－』ぎょうせい
  
- 小湊卓夫・中井俊樹(2007)  
「国立大学法人におけるインスティテューショナル・リサーチ組織の特質と課題」  
『大学評価・学位研究』第5号
  
- 山田礼子(2004)  
「今後日本でも重視される『IR』部門の役割」『カレッジマネジメント』第126号



---

**ご清聴いただき、  
ありがとうございました。**

**これからもよろしく願いいたします。**

**難波輝吉(なんばきよし)**

TEL 052-838-2032 FAX 052-833-5230

E-mail [nanba@ccmails.meijo-u.ac.jp](mailto:nanba@ccmails.meijo-u.ac.jp)